

### 第3回新塩尻市立平出博物館基本構想検討委員会議事概要

- 1 日 時 令和3年3月2日（火）午後2時～4時
- 2 場 所 塩尻総合文化センター 211・212会議室
- 3 出席者 委員11名（委員1名欠席）、事務局
- 4 議事内容

- (1) 第2回検討委員会の議事概要についての報告と確認
- (2) 新しい博物館の基本について

#### ①使命と役割について

「新しい博物館の使命と役割について」の説明と討議を行い、理念と担うべき役割について確認した。

#### 【主な意見等】

- ・地域文化の創造を使命とし、そのための人づくりや地域づくり、地域資源の継承と活用を博物館の役割とするのがよい。
- ・これからの博物館は、市民に対して問いかける活動が重要となる。
- ・今後、使命や役割を果たしていくためには、組織の在り方や具体的な活動の仕方が課題になるという認識は現段階から持っておいた方がよい。
- ・土台に地域資源の継承と活用があり、その上に地域づくり・人づくりがあり、頂点に地域文化の創造がある図が、使命と役割を端的に表現していてわかりやすい。

#### ②基本テーマ等について

新しい博物館の使命と役割に基づく「博物館の目指す姿と事業活動テーマ」の説明と討議を行った。

目指す姿は「過去に学び 未来につなぐ みんなの博物館」を仮決定としたが、塩尻らしさを盛り込んだ方がよいとの意見もあり、今後別案が示されることがあれば、あらためて検討することを確認した。

基本テーマ「未来につながる 人と森の物語」は内容的に不十分であるとの意見が多数であったため、今後の継続検討案件とした。

#### 【主な意見等】

- ・事業活動を行っていくうえで、情報発信は必要である。情報発信を通じて地域の文化を創造する使命を果たしていくという理念を入れた方がよい。
- ・市民が気楽に集い、楽しみ、学び、活用していくという理念を原点とし、これからの具体的な行動を考えて実行していくことが重要である。
- ・市民の知と行動がなければ、博物館のいかなる使命も果たすことができないのは当然だが、市民に任せきりになるのではなく、市立の博物館として何をするのかを明確にする必要がある。

- ・昭和 20 年代の平出遺跡の発掘からこれまで平出博物館が築き上げてきたものを大切に、さらにそこから前に進むのだという方向性を示した方が、ここで地域文化の創造を論じることの意義や枠組みがはっきりする。
- ・観光の目的に「地域らしさを見たい」というのがある。塩尻にある魅力を明確にし、博物館としてどのように活かし、来館者をどのように楽しませるかが重要である。
- ・歴史的な事象を身近に感じてもらうためには、博物館に来て学んだことが現代的な課題に対してどのように活かされるのかという視点を持つべき。
- ・人づくり・地域づくりに取り組むうえで、未来を担う子どもたちが重要となる。子どもたちに何らかの感動を与えるような展示や活動を最初から意識したほうがよい。
- ・提案のあった「未来につなぐ みんなの博物館」という目指す姿だが、過去を見つめる必要もあるのではないか。
- ・未来への展望を持つには過去と現在を追究することが必要である。だとすれば、目指す姿は「過去に学び 未来につなぐ みんなの博物館」とするのがよい。
- ・提案のあった基本テーマ「未来につながる 人と森の物語」は、新しい博物館の事業活動の基本として位置付けた場合、展示や活動の内容を狭めてしまうのではないかと危惧する。
- ・じっくり読みこめば文章の中で「森」が自然全体を表すものとして定義されていることがわかるが、テーマだけを読んだ人にはわかりづらいので、誰が読んでもわかるテーマにした方がよい。
- ・破壊や共生など人と自然の関わり方には様々な方向性があるが、人の営みに自然が常に存在していることは確かである。しかし、「森」の一語でそうした人とともにある自然全体を表現できているかは疑問である。

### (3) 新しい博物館の基本的事業活動方針について

「事業活動の基本方針と主要事業について」の説明と討議を行い、活動方針と主要事業について確認した。

#### 【主な意見等】

- ・地域の文化的所産に光をあてることも博物館の大きな使命と考えるので、調査や研究は事業活動基本方針の根幹に据えた方がよい。
- ・資料の収集・保管・研究という博物館の基本的な事業があつてこそ、市民のための活動が成立すると感じる。
- ・収集する範囲や対象は今後の検討課題となるが、まずは資料を収集し、保存することについての一文を基本構想に掲載することを委員会として求めたい。
- ・資料の調査・研究があつてこそ、博物館により塩尻らしさがでてくる。
- ・市民の皆さんが、自ら学習した成果の発表をしたり、交流ができる場として博物館が機能するとよい。

- ・市民ボランティアの博物館事業への関わり方は非常に重要である。ボランティアの参加者は自分なりのやりたいことがあるはずなので、やりがいや魅力を感じなければ先につながらない。
- ・市民ボランティアが楽しみ、学びながら参加できる仕組みを作らなければならない。
- ・市内の博物館や図書館、公民館、学校などといかに連動性をもった事業を展開できるかが重要である。
- ・構想としてまとめる際には、他の施設との連動性が視覚的にわかるような体系図を挿入した方がよい。
- ・平出博物館を基幹博物館として、市内にある博物館を統括する立場に位置づけるのであれば、組織や人的構成にも今後配慮していく必要がある。
- ・塩尻市の文化基本方針との連動も重要となる。この場合の文化とは、いわゆる芸術文化だけではなく、言葉や料理など人々の諸活動によって生み出された有形・無形の文化的所産と捉え、博物館の活動が市の文化施策とどのようにつながるのかを意識する必要がある。
- ・博物館のあり方を示す基本構想であっても、理想を掲げるばかりではなく、ある程度塩尻市の人口や経済規模といった現実を踏まえることが必要。
- ・人的資源や予算には限りがあり、理想的な博物館活動と現実とのバランスは難しい問題であるが、総合的にみて平出博物館はよくやってくれていると市民から評価してもらえる博物館にならなければならないし、そうなるための博物館活動を支える基本構想としたい。